

白河地区保護司会会報

更生保護 しらかわ

責任者
会長：三森 繁
サポートセンター
白河市表郷番沢字和田46-9
TEL 0248-21-5922
編集者：広報委員会
題字：三森 繁
会報アドレス
<http://www.srkw.or.jp/~mimo/hogoshi/>



保護司信条

私たち保護司は、社会奉仕の精神をもって

- 一、公平と誠実を旨とし、過ちに陥った人たちの更生に尽くします。
- 一、明るい社会を築くため、すべての人々と手を携え、犯罪や非行の防止に努めます。
- 一、常に研鑽に励み、人格識見の向上に努めます。

平成六年五月制定



ご挨拶

白河地区保護司会
会長 三森 繁

平素より更生保護活動に深いご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年の十一月十八日には、三年ぶりに白河文化交流館コミネスで「福島県更生保護大会」が開催されました。その中で、初めてYouTube配信を行うなど時代に対応した大会にすることができました。

また、当市の「白河関跡」

の高校が東北勢で初となる優勝を果たし、優勝旗が白河の関を越えた記念すべき年となりました。

関係機関並びに保護司の皆様には、大変お世話になりました。心より感謝とお礼を申し上げます。

長引くコロナ禍の影響で人々の生活が不安定になりやすい中、受刑者が刑期を終えて社会に戻っても居場所がなく、世間から受け入れられず再入所したいと考えて罪を犯し、半数以上が再入所してしまふというのが現実です。

令和四年四月一日から少年法の一部が改正され、新しい保護観察も始まりました。

子供や大人が夢や希望を持ってお互いに支えあい、安全で安心して暮らせるよう、また、罪を犯した人や非行のある少年が少しでも早く社会復帰できる社会環境を整えることが重要であります。

県内の各市町村でも「再犯防止推進計画」の策定が急務であります。当保護司会として、一市一町三村を訪問し、

再犯防止対策として必要不可欠であることからお願いしてきました。

「SDGs」の理念の持続可能で、より良い社会を構築するため「誰一人取り残さない」意識の高まりがある中、重要な事業であると考えています。

また、コロナ禍が続く新しい生活様式が提唱され、「ICT事業」を推進していきます。科学の進歩と時代の流れに負けないよう皆様と共に学びながら進めたいと思っておりますのでご協力をお願いします。

今後とも、保護司会は犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域の力として、明るい社会づくりに積極的な役割を果たして参る所存であります。

つきましては、保護司会への皆様方の更なるご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

結びに、皆様のご健勝、ご活躍を祈念申し上げます。

生

人はみな、生かされて生きてゆく。

七転び八起き



福島保護観察所長

五十嵐 達

白河地区保護司会の皆様におかれましては、平素、保護観察をはじめとする更生保護の諸活動に御尽力いただき、心から御礼申し上げます。

コロナ禍で延期されてきた更生保護大会が、昨年、ようやく御地にて開催されました。参加人数を大幅に限定したものの、一堂に会し、顔を合わせる機会の貴重さと、新たな更生保護活動への決意を互いに確認し合うことができました。当日の円滑な進行を支えたのは、入念に準備をされて一致団結した運営スタッフの力であり、改めて感謝申し上げます。

白河地区では早くから保護司活動へのICT(情報通信技術)の活用に取り組み、保護司会挙げて率先して保護司専用ホームページH@(はあと)の利用を始めるなど、DX(デジタルトランスフォーメーション)デジタル変革)を実現しつつありますが、本大会においてもユーチューブによるライブ配信が導入され、現地に集まる

ことができない県下の更生保護関係者にも大会の雰囲気を感じていただくことができたほか、現在でも視聴可能で、大会を振り返ることが出来ます。

また、大会の記念品として限定製作された、白河だるまによる「ホゴちゃんだるま」は、講師への御礼の品となつたほか、大会パンフレットの表紙にも登場し、当地のアピールに印象的でした。

だるまには困難にくじけず座禅を続けた達磨大師のお姿が映されていると言われます。コロナに負けずに大会を実現したこと、甲子園優勝旗の悲願の白河関越え、医療観察における拠点病院となる「福島医療センター」こころの杜」開院など、だるまに込められた思いが現されたような白河地区の一年だったのではないのでしょうか。再犯防止の息の長い取組においても、この忍耐強さが求められていると感じます。これからもよろしくお願い申し上げます。



保護観察官二年目の思い

福島保護観察所 保護観察官

佐藤 風太

私事で恐縮ですが、保護観察官を拝命し、二年が経とうとしています。保護観察官になり、これまでの経験から感じたことは「再犯防止に人の支えは不可欠」ということです。保護観察期間中に残念ながら再犯に至った人たちの話を聞くと、自身の危うい時期を察してくれる人が身近におらず、また再犯を踏みとどまれるような心の支えとなる人がいない者が多かつたように感じます。

考えると、近隣の関係者や雇用主など、本人の居場所となる地域社会の協力が不可欠だと考えます。一方、地域社会は犯罪者に対して少なからず不安を持っていると思います。なぜなら、普通の人にとって犯罪者は身近ではないからです。我々は日常にこのような人たちと会って話をし、考えや悩みを聞き、危うい行動を指導する等の関わりの中で犯罪者であつても普通の人と大きく変わらない存在であることを理解していません。地域社会の抱える不安とは、どんな存在か知らないから怖い、近づき

たくない」という思いが含まれているのだと考えます。地域社会から見れば、保護観察所や保護司会は犯罪者に対して多くの経験を持つ専門家です。専門家である我々が地域社会のためにできることは何か、それは我々の持つ経験を伝えていくことだと考えます。生活や人物像など我々の見てきた犯罪者の実態を伝えていくことで、漠然とした不安は解消され、身近な場所に専門家がいるという安心感を地域社会に与えることができ、理解や協力の促進につながっていくのではないかと考えます。小職自身、そのような想いを持って業務に励みたいと思っております。更生保護関係者の皆様におかれましても引き続きの御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

第39回福島県更生保護大会について

常務理事 吉田 茂典



福島県更生保護大会が三年ぶり、令和四年十一月十八日「白河文化交流館コミネス」で白河地区保護司会では初めての地元開催で、さらにユーチューブによる初めての配信が行われた大会となりました。コロナ禍での開催のため、県内各地区の保護司会や更生保護女性会から三五〇名の参加者となりました。

大会開催までの三年間、様々な準備作業を行い無事、大会を開催出来ましたことは、会員の皆様のご協力のおかげです。また、ご尽力頂いた方々に改めて感謝申し上げます。大会の開会の辞を地元三森繁会長により行われ、講演として一龍齋貞花講師による「更生保護の父金原明善物語」の一席が披露されました。また、功績のあつた方々への顕彰が行われ、壇上で白河地区保護司会員が法務大臣表彰をはじめ各種表彰を代表して受彰されました。式典の中で式辞や挨拶では、様々な事情により生きづらさを抱

え望まない孤独や社会的孤立などを克服していくため、人と人との絆や支えてくれるコミュニティが大切であると言われています。このような再犯や非行を防止し、社会復帰を支えていくという更生保護に期待される役割は、いささかも変わることはありません。再犯防止推進計画の策定は、それぞれの地域の実情に根差した更生支援施策を実施していくための重要な動因になります。今後とも、地域の安全・安心に資するため、非行や犯罪のない明るい社会づくりにご尽力を頂きたいとのことです。私たち保護司も今回の大会での気持ち新たに心ひとつに地域と連携しながら、さらに更生保護活動を進めて参りたいと思っております。

今年度の活動

1 第七二回 社会を明るくする運動

(1) メッセージ伝達

白河市(7月6日)



白河方部保護司参加

三森会長より
圓谷光昭副市長へ

白河市(7月6日)



白河方部保護司参加

中島村(7月1日)



中島方部保護司参加

三森会長より
加藤幸一村長へ

矢吹町(7月1日)



矢吹方部保護司参加

三森会長より
蛸田泰昭町長へ

西郷村(7月1日)



西郷方部保護司参加

三森会長より
高橋廣志村長へ

泉崎村(7月1日)



泉崎方部保護司参加

三森会長より
箭内憲勝村長へ

西郷村(7月1日)



社会を明るくする運動 啓発活動

白河実業高等学校(7月15日)



薬物乱用防止出前講座

日本一遅い山開き(11月23日)



天狗山 啓発活動

白河市表郷庁舎(7月6日)



幼稚園児によるホゴちゃんぬりえ

大信小学校(6月16日)



社会を明るくする運動等 啓発活動

大信中学校(8月3日)



「生きる力」はきみの中にある冊子 贈呈

(2) 街頭啓発活動及び他団体との連携事業

第39回 県更生保護大会

・十一月十八日
・白河市

受彰者(白河地区)

法務大臣表彰

鈴木裕一

全国保護司連盟理事長表彰

加藤芳子 鈴木博成

東北地方更生保護委員会委員長表彰

砂塚 功

東北地方保護司連盟会長表彰

吉田茂典 渡辺浩志

東北地方保護司連盟会長表彰

(家族功労者)
小椋祥子

福島県知事感謝状

鈴木 實 内藤信光
新妻眞孝

福島保護観察所長表彰

大竹君江 近藤洋一
松田隆志

福島県保護司会連合会会長表彰

岡崎利直 國分和好
篠宮正巳 水戸邦夫

受彰者のことば

法務大臣表彰

鈴木裕一

この度は法務大臣表彰を戴き、誠にありがとうございます。

多数のご来賓の御臨席を賜りましてここに開催されました地元開催の第三十九回福島県更生保護大会の席上、表彰の栄に浴したことは誠に光栄の至りであり、感謝申し上げます。

「更生保護」の仕事は、地域において「誰かが引き受けなければ



ばならない役目」との思いを抱いて関わり始めました。以来多くの方々との出会いの中で、多くのことを学ぶ機会を与えられてまいりました。

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故の影響は大きく、我が福島県の復興への道のりは未だ道半ばにあります。

本日の受彰を励みとし、初心を忘れることなく、犯罪や非行をした人たちが一人でも多く立ち直り、ひいては安全安心な地域社会の建設に寄与することで福島県の復興の一助となることを信じ、今後とも日々の活動や研鑽に努めてまいれる所存でございますので、なお一層のお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

「薬物依存症等」の自主研修会に参加して

箭内貞男

芸能人の薬物使用による再逮捕報道などを聞く度に私の中では、薬物依存は「回復しない。回復しても再犯し、それを繰り返す」という思いが強くなりま

す。それは、その人を取り巻く環境もあると思うが、本人の意思、性格によるところが大きいのではないかとこの思いがあるからです。

今回の研修では、「依存症にかかわる問題は何か?」「なぜ、薬物はコントロールできなくなるのか?」「依存症の人はどんな考えに陥っているのか?」「依存症の影響を減らし、回復への道へ導くために必要なことは何か?」「回復への支援として大事なことは何か?」「回復のための機関」「依存者の回復への支援で大事なことは何か?」「依存者の家族への支援は?」「依存者の家族、依存者本人に「治療を勧める準備度チェック」などの演習を通して、依存症とは、自分でコントロールできなくなる脳の病気であること。そして、その回復に向けて、依存症者本人やその家族にどんな支援が必要なのか。私たちにできることは何かを改めて考えさせられました。また、回復のための「DARC(ダルク)」や「自助グループ」の取り組みを知る事ができたことも今後の保護司の活動に活かしていきたいと思えます。

退任・新任保護司紹介

退任

- ・中村 周常 令和4年5月31日
- ・川崎 眞策 令和4年5月31日
- ・鈴木 利彦 令和4年5月31日
- ・森田 一實 令和4年11月30日
- ・小松 捷夫 令和4年11月30日
- ・佐藤 昌子 令和4年11月30日

新任

保護司 阿部克弘

令和4年6月1日

私は各種ボランティアの会長として「命の大切さ」「モラル・マナーの大切さ」「動物の素晴らしさ」の啓発活動をしています。この度、保護司活動をする事になりました。

諸先輩の指導を仰ぎながら頑張りますので、宜しくお願い致します。

保護司 高島 裕

令和4年6月1日

まさかの保護司という役職でしたが、研修を受けてわかった事は更生しようとする方々に寄り添う、やりがいのある役職でした。

今後、接する方々が同じ過ちを犯さずに更生できるような親身になって寄り添える保護司として、研修を受け、先輩の御指導を頂きながら尽力して参りたいと思えますので、よろしくお願ひします。

保護司 藤田元洋

令和4年6月1日

保護司会さんとは縁があり事務所にお伺いした際、保護司のお話をいただきました。仕事内容を考えれば考える程不安で一杯ですが、引き受けたからには対象者の目線で寄り添う保護司を目指していきたいです。時代の流れと共に様々なケースが想定されます。サポートを心掛けて取り組みたいと思います。

保護司 國井高利

令和4年12月1日

関心はありましたが保護司とはどういった活動をしている組織なのかさえ存じ上げておりませんでした。先日受講した研修を通してこの活動の責任の重さを痛感しましたが、それと同時に社会貢献という大きな喜びを見出すことができました。より良い未来を築き上げる一つのピースとして、良いセカンドチャンスを与えられるよう努力していきますので、ご指導ご鞭撻をよろしくお願ひします。

編集後記

二〇二二年、ロシアによるウクライナ侵攻のニュースは世界中の人々に大きな衝撃を与えました。その恐怖や不安が広がった一方で身近にあつて当たり前のもの大切なることを改めて感じるきっかけになりました。その一つが平和の大切さであると思ひます。

お忙しい中、執筆していただきました皆様、厚く御礼申し上げます。
(広報委員会)